第十三話

大人の過激な行動にこどもが犠牲者になって病院であれ

現在の不景「社会」の流れを、みなさまは、どのように受け止めておられますかな！

経済的には良くなっているようでございますが、

しかし、その陰には、チョッ…

私利私欲の悪感の集団が、びっしりと、囲んでいる事は、みなさまも良く熟知しておられるでありましょう！

毎日のように、心ふるわせるようなニュースとなって、私達を驚かせております。

少年少女による事件、こどもが

このような行動に出る背景には、大人、親のおろかな馬鹿さぶりの様と、ことば使かいにしても、日常の行動にしても、自分さえ、その場で満足すれば良いのだと、いう情なり、こどもに対して、悪いことをしているなと、いう、反省の気持がまったくなく、

自分自身を、有利に出来ることなら、人様を欺りとばしてでも進んでいく、そして、人の心を深く傷つける暴言を平気でいう、現在の大人このような人間達らしくない行動を「未来の国の宝のこども」達は全てお観察しておるのじゃ、

大人があんなことを言うん

いるから、僕らも
やろうよと、悪い大人の手
本を身につけていくのでござる
であるから、こどもの感覚では、
どこまで、良いのか、悪いのか、
脳の中では、処理が出来ない
のでござる。
これは、所ないことと思いま
せぬか、みなさん、
まだ驚くことではないですぞ。
こども達に指導する立場の
教育者たるものがだな、
訳ぬこどもが集まる入る
なかで、ある特定の子ども
に、ふざけてあろうが、
暴言を、くりかえしている
事だ。
その場に一緒にいた子ども達
も、面白がって、先生と同じ
ことを、そのこどもに、言うの

KYOKUTO 20×20

である。これがしゅぎにつながっていくのでございます。

それで先生のいない所で、しゅぎするようになるのだ。

大人はなんでもないつもりでいるが、子どもの場を盛り上げるつもりで、安易にいっている。

に、「たらい」深く筒となって残るのでございます。

現在の先生や大人は野山で子どもたちと実践体験遊を実行されたかは、まずないといっても過言ではなかろう。

であるから、吹けば飛ぶような子どもの気持がわかるはずがなかろう！

今からでも遅くない！大人たちは初心に戻り子どもになりかえり大自然の森で子どもたちと実践の遊びを行うスゴイバカに

なりきり、心を開くのは先生ぐ
ござるぞ。教室のなかで、私は
教師でござると、いばりくさって
命令的な態度をしていたら
やる気もおこりませんぞ。
ほどほど人間としての成長の
根幹は、自然のなかでの遊
びのなかにあり……そして
大人たちのことでござるが、
教師や、病院に携わる方々は、
専門知識は身につけているが、
残念なことに、人としての
一番大事なところを身に付
けておらん
国家試験に合格する為の
専門知識を、まる覚えで、あん
きゃくしかん試でござる。
親から高額な授業料を払っ
てもらっていることだ！
であるから、心を学ぶ余裕なんか

KYOKUTO 20×20

頭のなかでは、なっきまで、どこで
この先生と呼ばれて、心ない言
葉なことばが出る訳じゃない
ようするにだな、先生は偉いです
ね、と褒めて、ほしい訳じゃ
このようなことであるから……
只己の欲望を満たすために、
安定した生活の為としても良
かろう。
であるから、本当に社会の為
に、人の命を守るため、私利
私欲の心はありませんと言い
切る者がなんにんいるでしょう
か。

私は平成十九年九月に豊田市
の加茂病院に入院することに
なり現在の豊田厚生病院。
生死をかけての大手術を行い
ました。地獄の入口ふちまで
いき死との戦いをいろいろと。

KYOKUTO 20×20

しかし実践経験させてもらった、光の映像が私の脳のなかに鮮明残っているではないですか。

「えッ、どんな映像なんだ」と、ことばでは説明するが、書くことは、簡単なんぼあってもが、足りない位。診察を原さた。

しかはイモレイトされ、

ち陰様で私の命は、助かることができました。

二度とこのようなつらい思いはしたくないですね。

生きる事ができたが、病院の※ないところが、この目耳で体感させられた。

手術が終って、病棟にいれからも、つらい思いをさせられた。

看護師は、患者に対して、女子、男性と、患者より、一歩上がって、敬ってくれる人と、思

っていた私。まったく違かの人いたのだ。じゃる。じゃ悪さされたら治るものもなをらなくなると私は思った。

この時に、以前人から聞いた話を思い出した。

加茂病院に入院したら、死ぬまで出れない、ということを。

この病院は、私が入院する前から、じゃ悪さされたのだ。

※職外科の目がねをかけた若いたまごだ。あろうか。

※救急車をタクシー換わりに使かってくかん。

※こんな時間に来ても、医師は誰もいないから、明日。来るようにっていたのだ。急者は、大変な思いをして病院まで行ったのに、ある医師はこのようなだめなことばはいわないなら。

なし。この男は、医師の資格なし、医師の改竄をつけた。悪魔だと思った。

このような未完成な医師を、緊急時に、メインで、おいている、病院長の患者に対する、心が見えてくる。

そして、このような事があった。数日後に入院して、生死をかけた心臓の大手術を行った。

この時にも病室で、いやがらせのことばを何んぐ度か、私にいったことを、はっきり覚えている。また同じ病棟内で、看護師の、ことばが悪い事には、あきれはてた。看護師も、日々のストレスを、弱い立場の患者に当たりちらしまくっている。

このつだ。この外に、びっくりする、なつ、押付け看護ぶり、

患者をしびれる動機を探し
まわっているようにもとれる行
動を見る事が出来た。
こんなにつらい思いをさせられる
病院には、二度と入院は、したく
ないと心ずに。
心臓外科の部長、手術は大変
でございただあろうが、しかしだな
、上司として、部下の日々の
態度をチェック、しことは、たは、
とくに気を付けて、指導される
事を願うておりますぞ。
患者もいいたい事が沢山ある
のを我慢をしておるのでございま
す。外科部長、カテーテル検査は
お若い方さんでございた、
もう、大分腕を上げられた。
でございろうが、
患者の心を癒す技は、
もっと大事では、ありませんか

KYOKUTO 20×20

なが
患者の話を聴いて下され
ばそれで、患者が納得する
安心する話「答」を、頼って
おりますぞ。
忙がしいからとかいって手抜き
医療はされないと思います。
病院長、まだ会ったことが
ありませんが。
私の命が、ある日に話をし
たものだとする、
どんなに立派な肩書きが
あれど、
心なき組織の営利先行の
上司の全ての部下に伝わる
ものは、人の痛みも、苦み
もなくした、未完成な医
療そのものであるよりか、
信じきって、いる患者に対して
申訳ないと感じませぬかな。

KYOKUTO 20×20

治療金は、しっかりと、とっ入しるつもりだろうが、
私は、君たちとは、ちょっと、違うぞ。
話をしなくて、わからんだろうから、少々話ますぞ。
平成六年に西尾市の中学生が、いじめられて、誰にも相談もせずにまで、自殺すると言う事件が、おこりました。
この時に、私は思った。
先生は、親は、大人たちは、この子の日々の行動、サインすらも、わかってあげられない大人になってしまっているのか、
それならば、この私が、
悩んでいるこども、たちの声を聴いて、あげられる、所の場所を、設立しようと、私の命を、かけて、頑張ってみようと、天に誓

ったのじゃ。きみ達のような
欲を先行させての活動で
はないのじゃ。だから、この数十年
は、いろんな戦いじゃった。
だから私の体もこわれてしまった
訳じゃる。一のいろんなこども
から大人までが来て、一人一人と
しての生き方、心を遊びながら
にして学んでいったと私は
思っています。

体験にまた人たちが、社会の弱
い人の為に役に立てられる事
を信じますぞ。
ぬくもりはわかってもらえましたか
な。このような訳じゃる。
病棟の看護師長！
あまやかし、が多いと、私は感じ
ましたぞ。現在の社会の事件が
ですぞ、医療現場じゃ、なぜ人
でもうたらどうなさりますかな！

KYOKUTO 20×20

いい看護婦長と、いわれていたいのであろう。

患者護婦長と、いわれる位になって、人不足で、病棟は婦長の責任だ。それにまた患者は安心して入院ができるのですね。

それからですね。

病室の実習は、やるべきではないですね。

病室にいろいろな痛みをもった患者がいる訳である。

そんな部屋で、学生実習を連れて来て、遊び半分で大きな声を出して笑って話をしているのでございます。

患者にとっては、苦痛、その中のである。

外にいろいろと、やり方がある。

ではないですか、患者にやメて、やり方を、なぜ考えないのじゃ。

KYOKUTO 20×20

教育の目を育てましょう。
ノロノロ医療をなくす。
心の医療を根幹にすれば
医師や看護師も減る事は
なしのだござるで。
おしまい
謙虚な姿勢なくば人は去る

この後も私一人の手記は続き
ますが、未曾有でおもしろ
く感動で仏人のおく深く
の人生が知れて、君も友達
になりたい。
目次を知ればおもますが
第十三話 少年のこころの仏人
第十四話 宿命を通じ出会う
第十五話 能力研究ノンタン試合
第十六話 後編
第十七話 地震と火山爆発夢で知る

第十一話　仙人宅訪問記

第十一話　雄ネコと子ネコの絆

第三十話　台風と戦う仙人と戒蔵

第二十一話　いじめ少高校生入門

第二十二話　いじられ、森から通学

第二十三話　いじられの成果記

第二十四話　仙人の顔のクッキを子どもが

第二十五話　我が子が海へ落ちる

第二十六話　命を賭けたショー

第二十七話　過激な鍛錬教室

第二十八話　大スズメ蜂に挑戦刺す

第二十九話　プロサッカ目指す中学入門

第三十話　誰もが中学生車になる

第三十一話　お金は稼げたが心は何処へ

この先も私の命ある限り綴り続けます。そしてみなさまの手記も載せていきますのでよろしくお待ち致しております。

おもしろく読みやすいように、仙人の綴り方をしますのでご了承ください。

私が、このような体験談を、一たのは、けっして病院の宣伝をなくすものではないのですが、地域の人々に歓迎され、安心して足をはこべる病院に成長してほしいから。患者を治す自分の心をプロの医療者と認識。全ての患者に思いやりの言葉で、手術を終えた。あとまで、笑顔で患者が納得いくまで、会話をしてほしいからでござる。お金のみを稼ぐのがプロではない。心も稼ぎたいべ。そして笑顔で先生々と呼ばれるのがどんなに気持が良いものか……。プロの集団でしょう。安来はず自分に、さびしく、あまえはなく全ての人が正しい手本を示そう

完

KYOKUTO 29×20